

令和 6 年 4 月 15 日現在

機関番号：32501

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K13477

研究課題名（和文）地域・民族固有の知をめぐる途上国のソーシャルワークと国際協力の関係性

研究課題名（英文）Relationship of indigenous social work in developing countries with international cooperation

研究代表者

東田 全央 (Higashida, Masateru)

淑徳大学・アジア国際社会福祉研究所・主任研究員

研究者番号：60892528

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：アジア圏のソーシャルワークにおける広義の地域・民族固有の知と外来知との関係性について分析し、その知見を踏まえて関係者と対話し議論を深めた。第一に、スリランカを事例国として、多様な知の間にある関係性について分析した。第二に、日本からアジア諸国に派遣された実践家の視点から、地域・民族固有の知等に関する認識と活動との相互作用に関して分析した。それらを統合的に考察したところ、ソーシャルワーカーにとっては様々なアクターとの相互作用を通じて外来知が日々の営みや活動、実践知等と影響をもたらしている可能性がある一方で、外部からの介入やその言説実践における権力性に対する批判的議論が求められることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

当初、本研究の意義は開発途上国の主体的実践の発展と、日本の国際協力の推進に寄与することであると考えていた。しかし、それとは差異がある学術的および国際的な意義が見出された。とくに、ソーシャルワークにおける広義の地域・民族固有の知、外来知および越境する知と現場実践をめぐる議論に対していくつかの知見と示唆が見出された。アジア諸国において、多様なポジショナリティをもつ関与者のそれぞれの視点と経験から新たな国際ソーシャルワーク像を探る試みには学術的貢献があったものとする。

研究成果の概要（英文）：This study examined the relationship between local/indigenous knowledges and foreign knowledge in social work in Asia. First, I analysed pluralistic practical knowledges in the Sri Lankan context as a case country. Second, from the perspective of the social workers dispatched from Japan to other Asian countries, I analysed the relationship between their perception and activities related to culturally relevant practices. The study integrated the findings and pointed out that it is necessary to critically discuss the positionality and power dynamics embedded in their practices. A series of dialogues based on the findings was also held with the stakeholders.

研究分野：国際ソーシャルワーク

キーワード：国際ソーシャルワーク 国際社会福祉 インディジナス・ソーシャルワーク 地域・民族固有の知 国際開発ソーシャルワーク

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2014年に国際ソーシャルワーカー連盟総会及び国際ソーシャルワーク学校連盟総会にて採択された「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」（以下、グローバル定義）には地域・民族固有の知（indigenous knowledges：世界各地に根ざして生み出されたとみなされ、伝統的に受け継がれてきた集合的な知恵や知見、知識等の総体）の尊重や社会開発の視点が盛り込まれた。グローバル定義には、その策定過程自体等への批判的な議論が必要であるが、ソーシャルワークにおける西洋中心主義への批判的議論と開発途上国の声が部分的にせよ反映されてきたことが指摘されている。さらに、世界において、地域・民族固有の知や先住民ソーシャルワーク（indigenous social work）、ポストコロニアル・ソーシャルワーク等についての学術的議論も活発に行われている（Higashida et al., 2023, Springer）。

しかし、アジアの開発途上国において、地域・民族固有の知を含む現地のソーシャルワークと国際開発ソーシャルワーク（越境する社会問題、人びと、ソーシャルワーク実践家を含みうる開発的実践）の関係性について、実践や根拠に基づいた検証は十分には見受けられない。言い換えると、ソーシャルワークにおいて地域・民族固有の知への注目が高まっているが、その知を活用しうる現地ワーカーや当事者等と国際協力の関係性に関する議論の醸成が必要である（東田, 2023, 大阪公立大学出版会）。

本研究では、開発途上国のソーシャルワーク実践における広義の地域・民族固有の知と外来知との関係性を探索しながら、国際開発ソーシャルワークの協働・協力のあり方を検討する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アジアの開発途上国のソーシャルワーク実践において、地域・民族固有の知がどのように活用されているかを検証した上で、外来知との相互作用の過程とその影響について明らかにすることである。その成果をもとに、国際開発ソーシャルワーク実践について、西洋中心主義とは異なる視点からの検討を試みる。

3. 研究の方法

ソーシャルワーク実践について、広義の地域・民族固有の知と、外来知との関係性を明らかにするために、具体的には次のように研究を進めた。1) 本研究のパイロット地として、スリランカの現地ワーカーの実践における地域・民族固有の知と外来知の関係性を質的に分析した。2) 日本から海外に派遣されたソーシャルワーカーの活動に関する報告書やインタビュー・データをもとに、現地ワーカーとの活動場面における地域・民族固有の知の認識内容について分析した。3) 以上の調査研究の知見をもとに現地関係者との議論・協議を行い、ソーシャルワークに関する知の相互作用や関係性について検討した。

4 . 研究成果

(1) スリランカの現地ワーカーの実践における地域・民族固有の知と外来知の関係性

スリランカのソーシャルワーク実践家へのインタビューを通じて得られた語りに対する主題分析により見出された主テーマには、【ソーシャルワークの視点】、【ソーシャルワークの教育・訓練と実践の関係】、【文脈と特徴的な実践】が含まれた。それらの分析データには、社会文化的文脈にそった活動実践、コミュニティを基盤とした実践の重要性、西洋生まれの専門職ソーシャルワークの実践とローカルな実践との対比などにかかわる語りが含まれた。たとえば、多民族・多宗教社会におけるソーシャルワーク実践と課題（同国の社会文化においてマイノリティや周辺化された人びととの取り組みを含む）や、自国におけるソーシャルワーク教育の課題、情報通信技術等のテクノロジーを用いた実践の有用性を強調する語りも含まれた。さらに、社会文化的に多面的な側面をもつスリランカにおける実践の背景と内容が含まれた。西洋生まれの専門職ソーシャルワークやグローバルイゼーション等との相互の影響がありながらも、スリランカの社会文化に適した実践と知にかかわる事象と認識が語られうる、と解釈することができる（Higashida et al., 2022, *Sustainability*）。

それらの知見を踏まえ、2023年1月24日に、ソーシャルワークの実践知の交流をテーマとした初回円卓会議をスリランカの国立社会開発機関（NISD）にて開催した（Higashida et al., 2023, 『淑徳大学アジア国際社会福祉研究所 2022 年度年報』）。2023年11月2日には、NISD とソーシャルワーカー協会（SLAPSW）との共催により、ソーシャルワーク実践の視点とスキルの探求に関する会議を現地開催した。それらの目的は、これまで十分に記録されていないソーシャルワーク関連の実践家の経験を共有し、新たな実践知とその国際的示唆を探索することであった。11月2日の本会議には40名程度が現地参加し、25名程度が一部遠隔参加した。基調講演後に2つの分科会にて合計11演題の個別発表が行われた。午後には、ソーシャルワーク実践家を主な対象とした実践知に関する対話セッションを実施した。本会議の知見には主流のソーシャルワーク言説とは異なりうる国際的な示唆も含まれた。2024年3月現在、それらの知見をもとに、スリランカの関係者とともに書籍化に向けて準備を進めている。本活動でともに見出していく知見と過程は、国境を越えて、ソーシャルワークや国際ソーシャルワークに関する言説に対して様々な含意を持つものと期待される。

(2) 日本から海外に派遣されたソーシャルワーカーの経験からみた実践知

国際ソーシャルワーカーからの視点に関しては、青年海外協力隊（JICA 海外協力隊）のうち社会福祉関連職種（JOCV ソーシャルワーカー）の経験について調査分析を実施した（Higashida, 2022, *International Journal of Social Welfare*）。JOCV ソーシャルワーカーへの半

構造化面接等により得られたデータの分析から、現地の人びととの活動における様々な困難さとそれに関わる要因を探索するとともに、協働的な実践における主観的経験について多面的に分析した。主題分析により生成された主テーマには、【現地の生活や活動に基づく社会文化理解】、【現地の関係者との協働実践】、【現地実践における姿勢や考え方】が含まれた。それにより、JOCV ソーシャルワーカーの活動場面における現地関与者とのかかわりを通じた、諸課題やニーズの把握とそれに対する方策や協働実践についての語りが見出された。調査参加者の JOCV ソーシャルワーカーの中には、少数民族や先住民を含む現地の人びととかかわる中で、社会文化について理解を試みながら、活動のあり方を試行した体験について語る人もいた。他方、日本のソーシャルワークとの相違に直面する等、現地の社会文化とその知についての理解の困難さや、言語的な習熟度についての言及も語られたことから、JOCV ソーシャルワーカーが現地においてさまざまな体験があることも示唆された。広義の地域・民族固有の知を含む知の共同生成の過程のあり方について示唆を与えるものであった。

(3) 統合的考察

2つの調査および国際会議の知見等を通じて、ソーシャルワークに関連する知について、諸個人が想定する西欧ルーツのソーシャルワーク、スリランカ等の現地におけるソーシャルワーク、日本のソーシャルワークの間の言説上の比較を行いながら、総括的な考察を継続的に行ってきた（e.g., 東田, 2022, 『淑徳大学アジア国際社会福祉研究所 2021 年度年報』；東田ほか, 2022, 日本社会福祉学会第 70 回秋季大会；東田, 2023, 大阪公立大学出版会）。

各調査では、関係者間のかかわりと越境する知との相互作用を、断片的ではあるがとらえることを試みた。そして、ソーシャルワーク実践家の間において、直接的な関与を含まない情報収集と学習、一方的な関与（海外から派遣された国際開発ソーシャルワークの実践家等による一方向的介入の場合等）、相互的な関与や学びあい等、越境する知にかかわるさまざまな形態のかかわり方を見出した。つまり、現実社会におけるかかわりこそが越境する知の諸相を理解する鍵となる、ということが示唆された。

さらに、実践知にかかわる相互作用におけるポジショナリティに関する問題が見出された。国際開発ソーシャルワークの実践家にとっては、どちらの知に優劣をつけるわけでもなく、対等性を目指すことを意図したとしても、そのポジショナリティによって越境する知にかかる困難性に直面しうる。つまり、逆説的ではあるが、「どのようなモデルが求められるか」や「どのようなアプローチが適切か」という問い自体に対して批判的に検討することが求められる。本研究において暗黙のうちに前提とされたこと（たとえば、「支援側」と「被支援側」といったポジションとその構造）もあろう（東田, 2023, 『共生学ジャーナル』）。

本研究の波及的な成果として、アジア圏において広がりを見せている仏教ソーシャルワークを事例とし、国際ソーシャルワークの視点から考察を行うことができた（東田ほか, 2023, 日本社会福祉学会第71回秋季大会; Higashida, 2023, *Asian Social Work and Policy Review*）。さらに、本研究の知見をよりどころにしながら、日本の精神保健福祉領域における実践知とソーシャルワーク教育の関係性についても論文化することができ、国際誌に掲載された（Higashida & Fujii, 2023, *Social Work Education*）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Higashida Masateru	4. 巻 18
2. 論文標題 Process of constructing alternative social work discourses in Asia: A case study of Buddhist social work as social representations	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian Social Work and Policy Review	6. 最初と最後の頁 e12298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/aswp.12298	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Higashida Masateru, Fujii Tatsuya	4. 巻 in press
2. 論文標題 Incorporating co-created knowledge into mental health social work education in Japan: an organizational case study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Social Work Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02615479.2023.2283041	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Higashida Masateru, Poonpoksini Wanwadee, Paul Krittebas, Das Tulshi Kumar, Vasudevan Varathagowry, Ali Isahaque, Jafar Muhammad, Shoukat Aisha, Matsuo Kana	4. 巻 1
2. 論文標題 An exploration of contextually relevant curricula in international social work education: learning from the experiences of selected Asian countries	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Discover Global Society	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s44282-023-00006-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Higashida Masateru, Attanayake Shamini, Ranaweera Amarawansa, Ashker Muhammad, Kumara H.W. Raveendra	4. 巻 7
2. 論文標題 Dialogue for reciprocal exchange of social work knowledge in Sri Lanka	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所2022年度年報	6. 最初と最後の頁 7-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 東田全央、藤井達也	4. 巻 106
2. 論文標題 やどかりの里の「知」は精神保健福祉教育にいかにかされるか 歴史的背景を踏まえた研究計画	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 響き合う街で（精神保健福祉ジャーナル）	6. 最初と最後の頁 42-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東田全央	4. 巻 7
2. 論文標題 社会的表象としての国際ソーシャルワーク：開発の文脈における実践家の語りとの接点をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 共生学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 194～215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/90819	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Higashida Masateru、Ranaweera Amarawansa、Herath Chulani	4. 巻 14
2. 論文標題 Exploring the Social Representations of Social Work in the Sri Lankan Cultural Context: A Qualitative Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su142316197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 東田全央	4. 巻 6
2. 論文標題 ソーシャルワーク実践における地域・民族固有の知、外来知、越境する知 - スリランカと日本の実践家を対象とした質的研究結果の再解釈 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所2021年度年報	6. 最初と最後の頁 1～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Higashida Masateru	4. 巻 N/A
2. 論文標題 An inductive content analysis of international social welfare syllabi at national and public universities in Japan: Towards a glocal subject design	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Social Work Education	6. 最初と最後の頁 1~18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02615479.2022.2107194	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masateru Higashida	4. 巻 -
2. 論文標題 Exploring how international social workers perceive culturally relevant practices: A case study of Japanese social workers' experiences in other Asian countries	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Social Welfare	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijsw.12526	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masateru Higashida	4. 巻 -
2. 論文標題 Education and training opportunities for local and indigenous social workers: Case studies in disability-related fields from an international development perspective	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Social Work Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02615479.2021.1978966	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masateru Higashida, Amarawansa Ranaweera	4. 巻 6
2. 論文標題 Challenges of international social work research during the COVID-19 pandemic: Lessons learnt from a bilateral collaborative study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Social Work Journal	6. 最初と最後の頁 1~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.47405/aswj.v6i6.185	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Masateru Higashida	4. 巻 11
2. 論文標題 Lived experience of disability equality training facilitators: Narratives of disabled people from Ulaanbaatar, Mongolia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 SAGE Open	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/21582440211032656	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masateru Higashida	4. 巻 15
2. 論文標題 Exploring subjective experiences of international social workers in Asia: Content analysis of Japanese field reports	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Social Work and Policy Review	6. 最初と最後の頁 123 ~ 132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/aswp.12225	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東田全央	4. 巻 98
2. 論文標題 ソーシャルワークにおける地域・民族固有の知と実践の探求～グローバルな国際福祉教育研究の視点から～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 響き合う街で	6. 最初と最後の頁 30 ~ 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 東田全央
2. 発表標題 Re-examining international social work theory (国際ソーシャルワーク理論再考)
3. 学会等名 アジア国際社会福祉研究所第8回国際学術フォーラム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Higashida Masateru
2. 発表標題 A framework for dialogue: Why do we focus on local and foreign knowledges in social work practice?
3. 学会等名 Uncovering the Perspectives and Skills of Social Work Practices in the Sri Lankan Context (Series of dialogues for the reciprocal exchange of social work knowledge) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 東田全央、藤森雄介、松尾加奈
2. 発表標題 越境するBuddhist Social Workの浸透の過程 - 社会的表象理論の視点からの一考察 -
3. 学会等名 日本社会福祉学会第71回秋季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Higashida Masateru
2. 発表標題 Policy and practice in disability and development towards inclusive social change: Implications for social work
3. 学会等名 Open Mind Mongolia 2023: Exploring innovative solutions for contemporary social challenges (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Higashida Masateru
2. 発表標題 Uncovering the perspectives and skills of social work practices in the Bangladeshi context
3. 学会等名 WSWD 2023: 6th International Conference (Community Social Work Practice & Development Foundation) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 東田全央
2. 発表標題 地域・民族固有の知と国際開発ソーシャルワークの関係性 スリランカおよび日本の実践家の経験に関する調査結果の統合的考察
3. 学会等名 日本社会福祉学会第70回秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Higashida Masateru
2. 発表標題 Dialogue for reciprocal exchange of social work knowledge and experiences in Sri Lanka
3. 学会等名 Kick-off meeting: Dialogue for reciprocal exchange of social work knowledge in Sri Lanka (with NISD and SLAPSW) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Higashida Masateru
2. 発表標題 Round-up session: Towards alternative ISW education?
3. 学会等名 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所 第7回国際学術フォーラム (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 東田全央、藤井達也
2. 発表標題 やどかりの里の「知」は精神保健福祉教育にいかにか活かされるか
3. 学会等名 第21回 (2022年度) やどかり研究所報告・交流集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masateru Higashida
2. 発表標題 Exploring culturally relevant practices in international developmental social work: Japanese social workers' experiences in other Asian countries
3. 学会等名 ASASWEI Social Work International Online Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東田全央
2. 発表標題 多文化共生にかかわるソーシャルワーク教育開発の探求～国際福祉関連科目からの接近～
3. 学会等名 第20回日本精神保健福祉士学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 東田全央	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大阪公立大学出版会	5. 総ページ数 146
3. 書名 国際開発ソーシャルワーク入門 改訂版	

1. 著者名 Matsuo Kana, Higashida Masateru	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Asian Research Institute for International Social Work (ARIISW), Shukutoku University	5. 総ページ数 84
3. 書名 What does international social work comprise and how should this be presented in the social work curricula? (Report on the 7th International Social work Academic Forum)	

1. 著者名 Higashida Masateru、Attanayake Shamini、Ranaweera Amarawansa、Ashker Muhammad、Kumara H.W. Raveendra	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Asian Research Institute for International Social Work (ARIISW), Shukutoku University	5. 総ページ数 55
3. 書名 Uncovering the Perspectives and Skills of Social Work Practices in the Sri Lankan Context (Conference proceedings)	

1. 著者名 Koustab Majumdar et al. (Eds.)、Higashida Masateru et al. (Chapter)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 458
3. 書名 Indigenization Discourse in Social Work: International Perspectives (Chapter: Integrating indigenous perspectives into international social work education: A case study in Japan)	

1. 著者名 Higashida Masateru、Dugarsuren Oyuntsetseg	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Department of Sociology and Social Work, National University of Mongolia and Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku University	5. 総ページ数 66
3. 書名 Policy and practice in disability and development towards inclusive social change: Implications for social work	

1. 著者名 東田全央、松尾加奈、原島博編（企画実施：アジア国際社会福祉研究会）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所	5. 総ページ数 88
3. 書名 国際ソーシャルワークを実践家の声から問う	

1. 著者名 デビッド・ワーナー他、アジア保健研修所他監訳（分担共訳：東田全央、古川雅一）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 公益財団法人 アジア保健研修所（AHI）	5. 総ページ数 644
3. 書名 学ぶことは変わること 自分と地域の力を引き出すアイデアブック（分担：5～7章）	

1. 著者名 東田 全央	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪公立大学共同出版会	5. 総ページ数 126
3. 書名 国際開発ソーシャルワーク入門	

1. 著者名 やどかりの里50周年記念出版編集委員会（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 やどかり出版	5. 総ページ数 123
3. 書名 「もう1つの価値」に出会う 50のエピソードで綴る50のヒント	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Uncovering the Perspectives and Skills of Social Work Practices in the Sri Lankan Context (Series of dialogues for the reciprocal exchange of social work knowledge)	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Kick-off meeting: Dialogue for reciprocal exchange of social work knowledge in Sri Lanka	開催年 2023年～2023年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------